

報 雜

◎人 事

岡山醫科大學助教授 中 井 良 平
本俸七級俸下賜

(四月十五日)

任陸軍軍醫少尉 安 達 龍 夫

(三月三日)

岡山醫科大學教授從五位 根 岸 博
陸絳高等官二等

岡山醫科大學附
屬醫院藥局長 高 松 宗 信
陸絳高等官四等

(五月二日)

敘正八位 安 達 龍 夫

(三月三日)

敘正五位 從五位勳五等 根 岸 顯 祇

(四月十五日)

敘從四位 正五位勳五等 杉 山 九 一

正五位勳五等 杉 山 九 一

特旨ヲ以テ位一級被准

(五月六日)

○大 林 義 彦君 豫て岡山醫科大學津田外科教室
に於て研究中なりし同君は今般廣島縣府中町々立
病院外科醫長として就任せられたり

○佐 藤 道 夫君 豫て岡山醫科大學耳鼻咽喉科教
室に於て研究中なりし同君は先般京都府新舞鶴海
軍共済組合病院耳鼻咽喉科に轉勤せられたり

○前 田 哲 夫君 は豫て岡山醫科大學皮膚科泌尿
器科教室に勤務し居られしが今般岡山縣兒島郡玉
三井造船所病院皮膚科部長として就任せられたり

○土 井 眞 一君 豫て岡山醫科大學耳鼻咽喉科教
室に於て研究中なりし同君は先般同教室を辭し朝

鮮大邱府南龍岡町に於て開業せられたり

○佐 藤 信 也君 豫て京都府新舞鶴海軍共済組
合病院に勤務し居られし同君は先般再び岡山醫科大
學耳鼻咽喉科並に同學生理學教室に於て研究に従
事せられたり

○宇都宮三涉君 は豫て日本赤十字社高知支部病
院に勤務し居られしが先般辭職の上岡山醫科大學
生理學教室に勤務せられたり

○山 本 春 海君 は今般廣島市中央病院を辭し岡
山醫科大學解剖學教室に於て研究に従事せられた
り

○安岡英之助君 は今般再び岡山醫科大學産科婦
人科に勤務せらるる事となれり

○藤 澤 秀 圃君 は昨年 8 月以來山室部隊衛生隊
治療部軍醫として出征中なりしが此度無事歸還せ
られ従前通り宇部市西區三炭町江澤外科醫院に於
て診療に従事せられたり

○西 原 一 二君 は今般鳥取縣倉吉町簡易保險健
康相談所を辭し明治生命保險會社岡山支店に勤務
せられたり

◎學位授與

三宅慎治、石井生夫、矢島壽、岡宏、内藤達雄の
5 君は豫て論文を岡山醫科大學に提出し學位を請
求し居られしが三宅君は本年 3 月 7 日の教授會を
通過し去る 4 月 20 日、石井君は同月 22 日の教授
會を通過し本月 12 日、矢島、岡、内藤の 3 君は去
る 4 月 18 日の教授會を通過し本月 18 日孰れも醫
學博士の學位を授與せられたり其主論文及び參考
論文は次の如し

三宅 慎 治 君

主 論 文

「メチールアミノオクテン」ノ藥理學的研究

- 其 1. 一般作用, 毒性, 局所麻痺作用及ビ血壓竝ニ心臟ニ對スル作用ニ就テ (本誌第 49 年第 3 號ニ發表セリ)
- 其 2. 家兎及ビ犬ノ腸管竝ニ子宮ニ對スル作用 (本誌第 49 年第 7 號ニ發表セリ)
- 其 3. 血管, 呼吸, 尿排泄, 血糖ニ對スル作用竝ニ摘出家兎子宮, 腸管ニ對スル作用ニ及ボス「鹽酸ヒステヂン」ノ影響ニ就テ (本誌第 49 年第 10 號ニ發表セリ)

參 考 論 文

- 其 1. 「ハルマリン」ノ家兎血糖及ビ血清「カルチウム」量ニ及ボス影響 (本誌第 48 年第 11 號ニ發表セリ)
- 其 2. 「いかりそう」(程羊蠶)ノ藥理學的研究
 - 第 1 報 一般作用, 毒性, 血壓, 血管, 心臟竝ニ呼吸ニ及ボス影響 (本誌第 49 年第 10 號ニ發表セリ)
 - 其 3. 同上
 - 第 2 報 滑平筋, 臟器ニ對スル作用及ビ家兎尿量ニ及ボス影響竝ニ連續投與ノ生殖器ニ對スル影響 (日本藥物學雜誌第 24 卷第 1 號ニ發表セリ)
- 其 4. 「鹽酸ブタリールメチールカルヒナミン」ノ 2, 3 動物ノ滑平筋臟器ニ對スル作用 (本誌第 50 年第 4 號ニ發表セリ)
- 其 5. カーン氏竝ニ宗氏蠱毒血清反應ニ就テ (本誌第 49 年第 11 號ニ發表セリ)
- 其 6. 過去 10 年間ニ於ケル濕疹患者統計 (遠藤修一, 三宅慎治共著) (本誌第 47 年第 3 號ニ發表セリ)

石 井 生 夫 君

主 論 文

實驗的創傷及ビ腹膜炎ノ滲出及ビ滲漏液新陳代謝ニ及ボス膽汁酸ノ影響

- 其 1. 膽物代謝 (岡山醫科大學歐文業府第 5 卷第 3 號ニ發表セリ)
- 其 2. 膽物代謝ト植物神經毒 (同上)
- 其 3. 炭水化物代謝 (同上)
- 其 4. 蛋白代謝 (同上)

參 考 論 文

- 其 1. 實驗的腎臟炎家兎尿成分ニ及ボス膽汁酸ノ影響 (本誌第 50 年第 5 號ニ發表セリ)
- 其 2. 「ヒヨール酸」, 「ステロヒヨレン酸」及ビ「エルゴステリン」ノ膽汁酸及ビ膽汁酸排泄ニ及ボス影響 (追テ本誌ニ發表ノ豫定)
- 其 3. 各種膽汁酸ノ表面張力降下作用ニ就テ (大綱要人, 石井生夫共著) (追テ本誌ニ發表ノ豫定)
- 其 4. 網膜色素集簇症(「網膜メラノージス」)ノ 1 例 (日本眼科學會雜誌第 29 卷第 10 號ニ發表セリ)
- 其 5. 各種點眼藥及ビ酸化青酸汞水ノ細菌汚染竝ニ其消毒試驗 (日本眼科學會雜誌第 36 卷第 4 號ニ發表セリ)
- 其 6. 「アドレナリン」ノ調節機ニ及ボス影響ニ就テ (中央眼科醫報第 17 卷第 8 號ニ發表セリ)
- 其 7. 健眼々壓ノ日差ニ就テ (軍醫團雜誌第 222 號ニ發表セリ)

矢 島 壽 君

主 論 文

子宮癌患者ノ消化管機能ニ關スル研究

- 第 1 編 子宮癌患者ノ胃液分泌ニ就テ (本誌第 48 年第 3 號ニ發表セリ)

第2編 子宮癌患者ノ胃腸運動機能ニ就テ

(本誌第48年第4號ニ發表セリ)

第3編 肉腫家兎ノ胃腸運動機能ニ關スル研究

附 全編ノ總括(本誌第49年第11號ニ發表セリ)

參考論文

1. 「レントゲン」配量ト蠶豆發育トノ關係(日本放射線醫學會雜誌第2卷第3號ニ發表セリ)
2. 婦人科の腰痛ト脊椎變化(近畿婦人科學會雜誌第18卷第6號ニ發表セリ)
3. 未成年子宮癌(近畿婦人科學會雜誌第18卷第9號ニ發表セリ)
4. 胎狀鬼胎ニ合併シテ短時日ニ發生セル卵巢腫瘍ノ1例(臨牀產科婦人科第5卷第5號ニ發表セリ)
5. 膽汁酸鹽類ノ性「ホルモン」ニ及ボス影響ニ就テ
第1回報告 膽汁酸鹽類ノ幼若雌性動物交尾期發現竝ニ生殖器發育ニ及ボス影響(丸山一郎, 矢島壽共著)(本誌第48年第9號ニ發表セリ)
第2回報告 膽汁酸鹽類ノ卵巢「ホルモン」竝ニ所謂腦下垂體前葉「ホルモン」ニ及ボス影響(丸山一郎, 矢島壽共著)(本誌第48年第10號ニ發表セリ)

岡 宏 君

主論文

内分泌腺ノ骨折性變化ニ關スル研究補遺

1. 骨折治療諸期ニ於ケル副腎ノ組織學的所見(追テ本誌ニ發表ノ豫定)
2. 骨折治療諸期ニ於ケル松果腺, 睪臟, 唾液腺及ビ辜丸ノ組織學的所見(追テ本誌ニ

發表ノ豫定)

兩棲類腦下垂體ノ骨折性變化(追テ本誌ニ發表ノ豫定)

參考論文

1. 實驗的副腎機能不全時ニ於ケル腦下垂體ノ變化(本誌第49年第11號ニ發表ス)
2. 病理解剖學的ニ觀タル「トロトラスト」ノ人體ニ及ボス影響(本誌第49年第2號ニ發表ス)
3. アヂソン氏病ノ1剖檢例(本誌第49年第1號ニ發表ス)

内 藤 達 雄 君

主論文

蛋白消化産物ニ對スル血清學的所見

- 第1編 「ベアトン」ノ抗原性ニ關スル知見補遺(本誌第48年第10號ニ發表セリ)
- 第2編 吸着相ノ抗原性賦活能力(本誌第48年第10號ニ發表セリ)
- 第3編 「ベアトン」感作ニヨル過敏症實驗(本誌第48年第11號ニ發表セリ)

參考論文

含水炭素ノ抗原性ニ就テ

- 其1. 「アラビアゴム」ノ血清學的研究(本誌第48年第12號ニ發表セリ)
- 其2. 「コロヂウム」ノ抗原性賦活能力(本誌第49年第1號ニ發表セリ)
- 其3. 中等學校近視眼生徒ノ統計學的觀察(學校衛生第17卷第10號ニ發表セリ)
- 其4. 赤痢, 疫痢ニ於ケル腸出血死ノ5例(日本傳染病學會雜誌第7卷第4號ニ發表セリ)
- 其5. 「トリパフラビン」中毒ニ由ル血管運動神經障ノ1例(治療及ビ處方第161號ニ發表セリ)

其 6. 「ヂフテリー」性腎炎及ビ「ネフローゼ」ニ就テ (臨牀ト治療第 2 卷第 6 號ニ發表セリ)

◎帝國學士院授賞式

學界最高の榮譽である帝國學士院第 28 回授賞式は去る 13 日午後 2 時半より左記の如く同院講堂に於て舉行された

1. 院長の演述

1. 授 賞

帝國學士院賞

理學博士 水 島 三 一 郎

東宮御成婚の記念賞

理學博士 北 里 善 次 郎

醫學博士 清 水 多 榮

メンデンホール記念賞

渡 邊 襄

1. 内閣總理大臣祝辭

1. 宮内大臣祝辭

1. 文部大臣祝辭

(東京醫事新誌第 3063 號より)

◎東京通信

岡山醫學同窓會支部は別項の如く岡山醫科大學教授清水多榮博士が東宮御成婚の記念賞を授與せらるるを以て其授與式に列席の爲め上京せられ又岡

山醫學會書記松田金十郎君が明昭和 14 年舉行の同會創立 50 周年記念會の用務を帯びて上京せられしを機とし本月 17 日午後 7 時より築地 3 丁目料亭伊次に於て總會を開きしに出席者 40 餘名にして先づ幹事木畑辰夫君の開會の挨拶に次ぎて前年度の庶務報告次に幹事石松又生君の同年度の會計報告ありて終りに役員の改選は古田宗二郎君の動議が成立し選挙を省略し同君の指名を以て左記の通り決定す次に清水教授は岡山醫學會創立 50 周年記念會を開催する由來を述べ其會計豫算に就き簡単に説明し在京同窓諸氏の援助を乞はれしに一同賛意を表し直ちに別室の宴會場に移り副支部長古田宗二郎君の開宴の辭に併せて清水教授の今回の榮譽を祝せられ教授の榮譽は我同窓生一同の榮譽なりと述べ次に松田君が多年岡山醫學に盡されし勞を稱はれたり次に清水教授より簡單なる謝辭を述べられて酒宴に移り互に舊を談じ新を語り午後 11 時過ぎ一同歡を盡して散會したり尙ほ本支部事務所は今回東京市京橋區第一相互保險株式會社内に設置せるを以て同支部の要件に關しては一切同事務所に照會されたし

支 部 長 矢 野 恒 太 君

副支部長 桑 佐 八 郎 君

同 石 岡 繁 太 郎 君

幹 事 小 川 勇 平 君

同 荒 木 豊 吉 君